

論点 8 日本語教育の調査研究の体制について 中間まとめの素案等

1. はじめに ～日本語教育の調査に関する共通利用項目の意義～

文化審議会国語分科会日本語教育小委員会（以下「小委員会」という。）に設置された課題整理に関するワーキンググループが平成 25 年 2 月に取りまとめた「日本語教育の推進に向けた基本的な考え方と論点の整理について（報告）」の「論点 8 日本語教育の調査研究の体制について」では、文化庁が中心となって国立国語研究所、関係府省、自治体、社団法人日本語教育学会、大学等の協力を得て政策的に必要と考えられる調査研究を中長期的に実施していく必要があるとされた。

文化庁では日本語教育の振興のため、昭和 42 年度より、日本語教育実態調査を行っているが、これは、日本語教育実施機関・団体等に対して行っているものであり、日本語教育を実施している機関数、教師数、学習者数等の基本的な数字を把握しているに過ぎず、外国人に対しての日本語能力や学習経験などに関する調査は、対象者を補足する手法の問題や予算の確保が充分に行えていないことから実施困難な状況である。そのため、日本語教育政策上基本的に必要な日本語教育が必要な外国人の数や日本語学習環境などについて把握できていない。

一方、都道府県や市区町村は、それぞれが策定している多文化共生推進プラン等の改定の検討材料とするため、域内に暮らす外国人に対して、日本語能力や日本語学習状況に関する調査を行っているところがあり、外国人の状況を知る上で貴重なものとなっている。ただし、都道府県、市区町村によって調査項目などは異なるため、地域間の比較や全国的な傾向の把握は困難である。

そこで、小委員会では、地域間の比較や全国的な傾向の把握が行えるように、地方公共団体が実施する調査の項目の共通化について検討を行った。

検討に当たっては、過去の調査結果等との比較が困難になる等の理由から、地方公共団体で行っている調査項目を完全に統一することは困難であることに配慮し、可能な範囲で利用することを前提とした。

小委員会で検討、作成した「日本語教育の調査（自治体等が実施）に関する共通利用項目」（以下、「共通利用項目」という。）については、文化庁において、共通利用項目が多く都道府県、市区町村で広く活用されるよう周知、広報に努めるとともに、それを活用した調査研究に関する情報の収集・分析を行うものとする。

また、分析結果から得られた各地域の状況の違い及び全国的な傾向などについては、広く公表し、文化庁における日本語教育施策に役立てることはもちろん、各地の日本語教育施策の企画立案の参考となるものとする。

2. 日本語教育の調査に関する共通利用項目の作成の観点、活用方法について

2. 1 日本語教育に関する調査（自治体等が実施）に関する共通利用項目の作成の観点

- 都道府県、政令指定都市等が実施している調査の継続性なども考慮に入れる必要があることから、調査に関する共通利用項目は、各都道府県・政令指定都市が実施した調査項目を収集し、それらを基に質問項目の汎用性と地域性、実用性、正当性、各都道府県等で行っている調査の継続性等の観点を踏まえ、作成している。

2. 2 活用方法、活用の効果

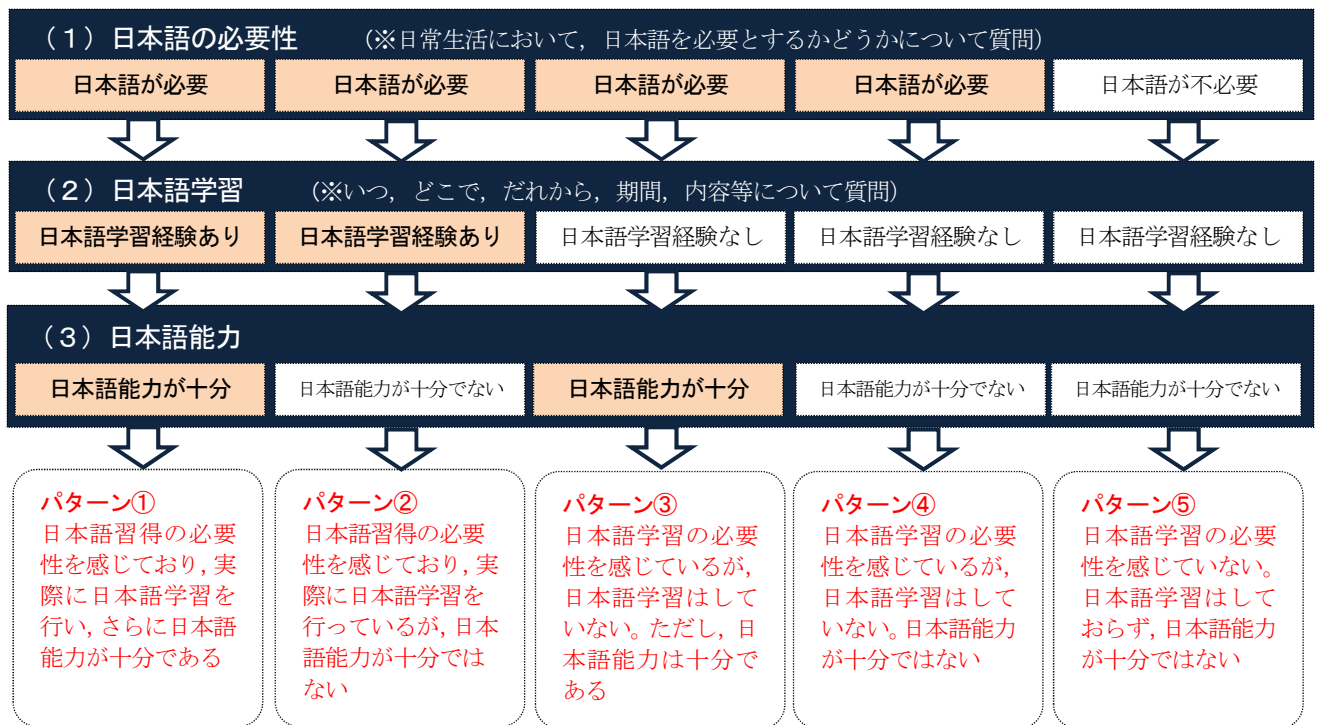
- 各都道府県や政令指定都市、その他の地方公共団体等において、調査に関する共通利用項目をそのまま活用した場合、より効果的に地域間の比較、全国的な傾向の把握を行うことが可能となるが、調査の継続性や地域状況の違いなどを考慮する場合は、必要に応じ、加筆・修正を加えて活用することが期待される。
- 文化庁は定期的に各都道府県、政令指定都市等における調査研究の実施状況及び調査結果について情報を収集し、発信する。調査に関する共通利用項目の活用により、地域間の比較、全国的な傾向の把握を行うだけでなく、次ページの【図】で示す①～⑤のケースと（1）～（3）の項目の関係

を整理し、日本語教育施策の企画立案に資することを旨とする。

- ・ なお、文化庁では、当面、一般に公開される情報を収集するが、今後、オープンデータ等に関する取組、検討なども参考に、都道府県や政令指定都市からこういった情報を提供してもらうことが可能か、どこまで統合することが可能か、統合にはこういった統計的な処理が必要か、データの提供を受けるためにはこういった手続きが必要か、そもそも十分な成果が見込めるか等について、都道府県、政令指定都市等や有識者と意見交換を行い、可能性について引き続き検討を行う。

【図】調査（自治体等が実施）に関する共通利用項目で収集したい情報

- ・ （１）日本語の必要性、（２）日本語学習、（３）日本語能力について情報を収集する。各項目に対する回答を以下の①～⑤のパターンに分けて、分析・整理を行う。
- ・ 基本的には実態調査とするが、意識面について日本語の必要性（ニーズ等）についてのみ、項目に加え、今後の施策を検討する際の参考とする。



3. 日本語教育の調査（自治体等が実施）に関する共通利用項目について

- ・ 都道府県、政令指定都市及びその地域国際化協会が既に実施している調査の調査項目（※参考資料 2「日本語教育に関する調査（自治体等が実施）の項目について」参照）を参考に、学習者の属性等に関する項目、日本語学習に関する項目、日本語能力に関する項目について、調査に関する共通利用項目を作成。

3. 1 学習者の属性等に関する項目について

問1 あなたの性別はどちらですか。

- ①男 ②女

問2 あなたの年齢は次のどれですか。

- ①～19歳 ②20～29歳 ③30～39歳 ④40～49歳
⑤50～59歳 ⑥60～69歳 ⑦70歳～

問3 あなたの出身は次のどれですか。

- ①中国 ②韓国・朝鮮 ③フィリピン ④ブラジル ⑤アメリカ
⑥ベトナム ⑦ペルー ⑧アメリカ ⑨タイ ⑩インド ⑪その他 ()

問4 あなたの在留資格は次のどれですか。

- ①特別永住者 ②永住者 ③留学 ④技能実習 ⑤定住者 ⑥日本人の配偶者等
⑦家族滞在 ⑧人文知識・国際業務 ⑨技術 ⑩技能 ⑪特定活動
⑫永住者の配偶者等 ⑬その他

問4 あなたはどのくらい日本で生活していますか。

- ①6か月未満 ②6か月以上～12か月未満 ③1年以上～3年未満
④3年以上～5年未満 ⑤5年以上～10年未満 ⑥10年以上～15年未満
⑦15年以上

問5 あなたはこれから、日本にどのくらい生活する予定ですか。

- ①6か月未満 ②6か月以上～12か月未満 ③1年以上～3年未満
④3年以上～5年未満 ⑤5年以上 ⑥住み続ける ⑦考えていない

~~問6 あなたは誰と一緒に住んでいますか。~~

- ~~①一人暮らし
②配偶者（夫または妻）と二人暮らし
③配偶者（夫または妻）及び親・子供など家族と同居
④日本人以外の知人と同居
⑤日本人の知人と同居
⑥その他~~

問7-6 仕事をしていますか

- ①している ②していない（今、探している） ③していない（探していない）

3. 2 日本語学習に関する項目

問1 あなたは、今、日本語を学んでいますか。

- ①学んでいる ②学んでいない

問2 あなたは何のために日本語を学んでいますか。

- ①日本で生活していくために必要だから ②日本人との付き合いを広げるため
③仕事で必要だから ④よりいい条件の仕事を探すため
⑤日本人の友人とのコミュニケーションのため

問3 あなたは今、どうやって日本語を学んでいますか。

- ①独学で（教科書やテレビ等） ②独学で（インターネットやアプリ等）
③無料の日本語教室で ④有料の日本語教室で ⑤家族から教わっている
⑥職場で教わっている ⑦友達（日本人）から教わっている
⑧友達（日本人以外）から教わっている ⑨その他

問4 今、日本語を学んでいないのはなぜですか。

- ①日本語ができるので、学ぶ必要がない
- ②日本語ができないが、学ぶ必要がない（家族や友人の通訳、母語で生活できる）
- ③学びたいが日本語教室がどこでいつあるか分からない
- ④学びたいが日本語教室に通うことができない

問5 日本語教室に通うことができていないのはなぜですか

- ①仕事や家事で時間がない ②日本語教室が近くにない
- ③日本語教室の時間が合わない ④日本語教室の内容や教え方が合わない
- ⑤子供を預かってくれるところがない ⑥日本語を学ぶお金がない
- ⑦その他

~~問6 あなたは来日前にどれぐらい日本語を学びましたか。~~

- ~~①学んでいない ②～6か月未満 ③6か月以上～12か月未満~~
- ~~④1年以上～3年未満 ⑤3年以上~~

~~問7 あなたは来日前にどうやって日本語を学びましたか。~~

- ~~①独学で（教科書やテレビ等） ②独学で（インターネットやアプリ等）~~
- ~~③無料の日本語教室で ④有料の日本語教室で~~
- ~~⑤家族から教わっている ⑥職場で教わっている~~
- ~~⑦友達（日本人）から教わっている ⑧友達（日本人以外）から教わっている~~
- ~~⑨その他~~

~~問8 あなたは来日後にどれぐらい日本語を学びましたか。~~

- ~~①学んでいない ②～5か月 ③6か月～11か月 ④1年～3年 ⑤3年～~~

~~問9 あなたは来日前にどうやって日本語を学びましたか。~~

- ~~①独学で（教科書やテレビ等） ②独学で（インターネットやアプリ等）~~
- ~~③無料の日本語教室で ④有料の日本語教室で~~
- ~~⑤家族から教わっている ⑥職場で教わっている~~
- ~~⑦友達（日本人）から教わっている ⑧友達（日本人以外）から教わっている~~
- ~~⑨その他~~

問10-6 次のようなとき、あなたは日本語が不自由なために、困ったことがありますか。最近1年間に困った経験があるものを選んでください。

- ①近所づきあいで ②電車やバスに乗るとき ③日常生活や買い物で
- ④役所の手続きで ⑤郵便局・銀行での手続きで ⑥仕事を探すとき
- ⑦仕事で ⑧病気になったとき ⑨学校の先生や職員と話すとき
- ⑩その他 ⑪困ったことはない

3. 3 日本語能力に関する項目

(検討事項)

- ① 日本語能力について、4技能（話す、聞く、読む、書く）の別に、4段階程度でレベルを示す方法（案1）と、能力記述を選択してもらう方法（案2）、場面ごとに4段階程度でレベルを示す方法（案3）のどちらが良いか。
- ② それぞれの案について、用語の選択について、どのように考えるのが良いか。
- ③ 各都道府県、政令指定都市等が行っている調査以外に、参考とすべきものはあるか。

(案1)

自分の日本語はどのレベルだと思いますか。

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

(※ ほかに「不自由なく話せる／大体話せる／余り話せない／ほとんど話せない」や「全く困らない／ほとんど困らない／時々困る／いつも困る」など。)

(案2)

あなたは日本語がどのくらいできますか。

[聞く] 1. テレビのニュース、ドラマを聞き取れる

2. 相手の言うことが大体聞きとれる

3. 相手がゆっくり話せば聞きとれる

4. 単語だけ聞きとれる

5. ほとんど聞き取れない

[話す] 1. 自分の意見を問題なく話せる

2. 自分の言いたいことが大体話せる

3. 簡単な日常会話ができる

4. 決まった挨拶、単語なら言うことができる

5. ほとんど話せない

[読む] 1. 新聞や雑誌が読める

2. 漢字交じりの文章が大体読める

3. 簡単な漢字交じりの言葉が読める

4. 平仮名又は片仮名なら読める

5. ほとんど読めない

(案3)

それぞれの場面で、自分の日本語はどのレベルだと思いますか。

①近所づきあい

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

②電車やバスに乗るとき

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

③日常生活や買い物で

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

④役所の手続きで

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑤郵便局・銀行での手続きで

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑥仕事を探すとき

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑦仕事で

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑧病気になったとき

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[書く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑨学校の先生や職員と話すとき

[話す] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

[聞く] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

⑩学校や役所からの手紙

[読む] 1. よくできる 2. まあまあできる 3. 余りできない 4. ほとんどできない

【補足】

- ・ 調査方法については、外国人登録原票から18～20歳以上の外国人から無作為抽出し、郵送によるアンケート形式によるものが多い。回収率はおおよそ20～30%程度。その他の方法として、日本語教室や国際交流協会、学校等、外国人と接点のある機関・団体に調査票を送付し、そこから外国人に対して手渡しする方法もあり、その場合は回収率が30～40%程度。
- ・ 中間まとめについては、地域における日本語教育協議会等を通じて、都道府県や政令指定都市及びその地域国際化協会等から意見を聞く予定

4. 日本語教育に関する調査の情報共有、分析について

- ・ 各都道府県、政令指定都市等が実施した調査や調査結果等について、文化庁が情報を収集し、日本語教育コンテンツ共有システムに掲載。

3. 関係各機関による調査結果の収集、活用、分析に関する計画について（たたき台）

1. 関係各機関による調査結果の活用・分析について

- ・ 関係各機関による調査結果の収集、活用、分析をより効果的に進めるため、以下の取組を行い、地域における日本語教育施策の推進を図る。

① 日本語教育小委員会において、地域における日本語教育施策の推進に資すると考えられる調査研究のテーマ及びデータについて整理を行う。

（例）○日本語学習者の状況について

- 日本語教育に関するニーズ，日本語学習者の日本語レベル，日本語学習環境，必要としている日本語教育の内容…等

○日本語教育の人材について

- 求められる能力，育成方法…等

② ①のテーマに該当する調査について、テーマごとに調査方法、調査結果、調査研究を実施する際の課題や留意点、困難点等について情報収集を行う。

情報収集については、日本語教育推進会議、地域における日本語教育協議会（都道府県、政令指定都市及びその地域国際化協会が対象）、関係各機関（国立国語研究所、日本語教育学会、自治体国際化協会等）へのヒアリングにより実施。

③ 関係各機関との間で、①、②に関して情報共有（調査のノウハウや課題、日本語教育施策の推進のために必要だが未だ実施されていないテーマ等について）を行い、今後、文化庁や関係各機関が行う調査研究の参考とする。

なお、情報共有を行う際、特に文化庁で実施する調査研究については、より有効な分析方法や活用方法、必要な改善等の助言を関係各機関や有識者からもらう。

[関係各機関]

国立国語研究所、関係府省、日本語教育学会、大学、独立行政法人国際交流基金、自治体国際化協会、各都道府県・政令指定都市及びその地域国際化協会、国立教育政策研究所等を想定。

（※趣旨や内容により調整を行う。）

2. 地域における日本語教育施策の推進に資すると考えられる調査研究のテーマ及びデータについて

調査テーマ	調査テーマごとに収集するデータ	調査テーマごとに整理すること
①日本語学習者の状況について <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育に関するニーズ ・日本語学習者の日本語レベル ・日本語学習環境 ・日本語学習の内容 ・日本語能力の測定方法，評価方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査方法 ・調査結果 ・調査研究を実施する際の課題や留意点，困難点 	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査テーマについて，明らかになったことと，引き続き，調査が必要なこと
②日本語教育の人材について <ul style="list-style-type: none"> ・求められる能力 ・育成方法 		